

演題『かたちづくりのメカニズムを解剖学レベルで理解する』

大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面解剖学分野 武智 正樹 教授



概要

口腔顎顔面の形態異常を引き起こす先天性疾患を理解するため疾患モデル動物を用いた研究が進められているが、形態形成やその異常を解剖学レベルで正確に理解することが病態メカニズム解明のための揺るぎない土台となる。演者は、これまで口腔顎顔面の解剖学的構造成立の背景にある分子発生メカニズムに焦点を当てて研究を展開してきた。本講演では、疾患モデルマウスを用いたこれまでの研究結果を紹介し、迅速に作出が可能で新規分子探索などの網羅的解析に適している疾患モデルゼブラフィッシュの開発など、今後の展望についてもお話ししたい。

ご略歴

2001年 北海道大学 理学部 卒業
2006年 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 修了
2006年 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 研究員
2011年 岩手医科大学 医学部 人体発生学講座 助教
2014年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 分子発生学分野 テニユアトラック助教
2020年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 顎顔面解剖学分野 講師
2022年 順天堂大学 医学部 解剖学・生体構造科学講座 准教授
2025年 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面解剖学分野 教授 現在に至る

演題『歯内療法の新たな展開 医工連携と社会実装』

大学院医歯学総合研究科 歯髓生物学分野 八幡 祥生 教授



概要

歯髓生物学分野は、電気的根管長測定器の原理証明と製品化をはじめとして、多くの治療技術開発を先導してきた。一方で、根尖性歯周炎の有病率は世界的にも50%を超えており、さらなる技術発展が求められている。近年、大学発シーズの社会実装が注目を集めており、特に医療技術分野では、経済産業省の「医療機器産業ビジョン2024」の策定に見られるように、大きな期待が寄せられている。このような背景のもと、演者は臨床ニーズを起点とした医工連携研究を通じて、新しい治療技術の開発と、その社会実装に取り組んできた。本講演では、これまでの取り組みから見えてきた課題と今後の展望について概説したい。

ご略歴

2005年 岩手医科大学歯学部 卒業
2009年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯髓生物学分野 修了
2009年 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 医員
2012年 昭和大学 歯学部 歯内治療学部門 助教
2014年 米国ウェストバージニア大学 歯内療法学講座 客員助教
2015年 米国国立標準技術研究所 客員研究員
2018年 東北大学病院 保存修復科 助教
2021年 東北大学病院 歯内療法科 講師
2023年 東北大学 大学院歯学研究科 歯科保存学講座 准教授
2025年 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 歯髓生物学分野 教授 現在に至る